

令和元年度第4回川口市廃棄物対策審議会議事録

令和元年度第4回川口市廃棄物対策審議会	
1 開 会	
2 挨 拶	
部長挨拶	
議事録署名人選任 竹内輝夫委員が指名される。	
議題（1）川口市一般廃棄物処理基本計画の改定について	
事務局	議題（1）に入る前に、前回の審議会において、各委員からの意見を踏まえ、修正した部分について、この場において、説明する。4ページの計画改定の目的の下の部分にSDGsについて追記をした。 22ページの図表2-1において、左側の項目の年月に各法律の制定、施行月を追加し、左から2番目の項目の関係法令にフロン排出抑制法、食品ロス削減推進法、プラスチック資源循環戦略を23ページに追記した。あわせて、24ページの図表2-2に追加の関係法令を追記した。28ページの図表2-6において、粗大ごみのフローの中に戸塚環境センターの保管、処理困難物の民間委託処理の流れを追記した。56ページの他市との比較では前回までの当審議会では、類似団体として特例市との比較をしていたが、本市は現在中核市であることから、中核市との比較とした。この結果58ページの図表2-43において、1人1日あたりごみ排出量は第4位、1人年間集団資源回収量は16位、リサイクル率は第12位であり、中核市においても平均より良い結果となっている。70ページの図表2-51として、温室効果ガス削減量の試算を追記した。上述のごみ総排出量の計画目標を達成した場合、中間年度では1,893t、最終年度では、4,355t削減される見込みである。
事務局から、資料に基づき説明。	
委員	12月14日に初めて市内で実施するフードドライブでは、集めた食品をフードバンク埼玉という市外の団体に持っていくことになっている。市内にも食品を必要としている団体や施設があると思われる

	が、次回以降に市内の団体や施設に受け渡すことはあるのか。
事務局	次回以降、その可能性を検討していく。
委員	東京都世田谷区や文京区、杉並区、岩手県盛岡市などでは、イベント的な開催ではなく、フードドライブを常設しているが、将来的に常設にする可能性はあるか。
事務局	今回初めての開催となるため、当面はイベントに合わせての実施を考えている。実施の経過を見て常設するかどうかを判断する。
委員	92ページの図表3-3 生活排水の処理体系について、公共下水道、合併浄化槽、単独浄化槽、し尿汲み取り便槽の4つの処理体系の比率はどのようなものか。
事務局	平成31年3月31日時点で、総人口604,675人に対して、公共下水道処理人口が499,365人、82.58%、し尿処理施設が105,310人、17.42%、こちらの17.42%のうち、浄化槽が102,887人、16.95%、し尿処理が2,423人、0.47%である。
委員	汚水処理からエネルギーの確保は考えているか。また、し尿排水の際等のエネルギーを活用して、循環型のエネルギーの確保を考えているか。
事務局	市としては再生可能エネルギーとしての活用は検討していない。
委員	将来的には資源循環の観点で、再生可能エネルギーとしての観点も検討すべきではないか。
事務局	し尿処理量は減少傾向であるため特に検討はしない。汚泥については肥料としてリサイクルしているので、引き続きリサイクルに取り組んでいく。
委員	プラスチックごみの問題で、12月2日からスペインでCOP25が開催される。地球温暖化に対する危機感が高まるばかりである。市としてはどのように考えているか。また、川口市の1人1日当たりのごみ排出量の少なさは、中核市の平均を上回っているが、1位を目指すくらいの姿勢も大事ではないかと考える。京都府亀岡市はレジ袋の配布を禁止する条例を制定し、国の方でもレジ袋の有料義務化が2020年7月から施行される。市として、レジ袋の有料化の状況や辞退率はどのように把握しているのか。

事務局	温暖化対策については、「川口市地球温暖化対策実行計画」を定めており、そちらで対策を進める。
事務局	レジ袋の有料化についての指針は出ていないが、現状の「川口市レジ袋の大幅な削減に向けた取組の推進に関する条例」に基づき辞退率60%を目指す取組を継続する。また、同条例にて計画書と報告書の提出を求めている。それらの報告をもとに辞退率や有料化への取り組み状況等を把握している。
委員	それらの情報の広報が必要ではないか。
事務局	ホームページにて公開している。
委員	環境問題については、町会・自治会とも連携するなどして、今後も広く市民へ広報いただきたい。
委員	6ページの図表1-2において、本計画の対象として災害廃棄物が含まれている。17、72、80ページにも災害廃棄物に関する記載があるが、本審議会において、災害廃棄物について審議する必要はないのか。
事務局	本審議会において、災害廃棄物処理計画の改定についての審議は行わない。80ページに記載した通り、川口市地域防災計画の改定時など必要に応じて災害廃棄物処理計画の見直しを行う。
委員	承知した。39ページの市民アンケートの間3(2)のごみステーションの問題について、「特に問題はない」が34.9%、無回答が5.0%となっている。川口市はごみステーションについて、問題がないと思われてしまう。そこで、「問題がある」が約60%、「特にない」が約35%、無回答が約5%とまとめてはどうか。同様に40ページの事業者アンケートの間4の実施しているごみ減量・資源化の取組についても、「特に取り組みはしていない」が約48%、無回答が約7%、「取組をしている」が約45%とまとめてはどうか。 第3回審議会では、地区別の回答の違いを説明頂いたが、まとめてみると問題があると考え方が多いのではないかと。問題ある方が多いのであれば、その後の66ページの適正排出の徹底にもつながる。アンケートについては、市民の方へ分かりやすく伝える観点からも、問題あり・なしでの回答割合を加えていただきたい。
事務局（受託事業者）	アンケートの39ページについては、設問の作成方法として、始めに問題があるかないか聞き、次に具体的に何が問題かを尋ねる場合が

	ある。その場合は、ご提案の通りに示してもよいと思うが、今回は初めから具体的問題について複数回答で聞く手法になっており、一般的にはそのようなまとめ方は行わない。一方、図を見やすくするため「特に問題はない」と無回答以外の回答は多い順に並べるようにしたい。40ページの問4も「特に取り組みはしていない」も同様にしたい。
事務局	市民アンケートの結果については、66ページの課題5 適正排出を徹底する、においてももう少し詳細に追記したい。
議長	頂いたご意見の修正等については、会長、事務局に一任いただきたい。
委員一同	異議なし。
委員	先ほどの説明で、そのような取りまとめが一般的でないことはわかったが、アンケート結果を初めてみる一般市民としては、並べ替えだけではわかりにくいのではないかと。わかりやすい記載を工夫いただきたい。
事務局（受託事業者）	委員の懸念は理解する。一方で、頂いたご提案は一般的な集計とは異なるので、問題のあり・なしの2つにまとめるのは難しいと考える。誤解を招かないように工夫したい。
委員	食品ロス実態調査については、調査結果に基づく川口市の1人1日当たりの食品ロス量と全国平均の食品ロス量を表に示してはどうか。また、計画の冒頭でSDGsについて記載しているので、82ページの重点プロジェクトの重点1 食品ロスの削減にも農林水産省の作成しているSDGsとの関係図を追記してはどうか。
事務局	1つ目の表は追記する。
事務局（受託事業者）	農林水産省の作成しているSDGsとの関係図については、環境白書に掲載されていた関係図であるが、どのような取組がSDGsのどのゴール・ターゲットにつながるかを表している。その資料の内容とは、想定する取組等が少し異なるので、川口市の取組に沿った図を追加する。
事務局	重点2 プラスチックごみの削減についても、SDGsとの関連がわかる図を追加する。
委員	100ページの数値目標についてである。平成30年度を基準とすると、公共下水道の普及の状況や今後の普及の見込みはどのようなも

	のか。また、合併処理浄化槽の普及については、どのような目標で、どのような手段で推進していくのか。
事務局	下水道処理人口普及率については、第5次川口市総合計画で令和2年度の目標値を88%と掲げている。近年の普及率の伸び率としては、年0.3～0.4%となっている。
事務局	合併処理浄化槽の普及の目標については、中核市への移行の際に浄化槽の所管が県から市へ移管された。これまで、単独浄化槽、合併浄化槽共に台帳がない状況であり、今年度から台帳作成に取り組んでいる。そのため、現時点では目標率は設定できていない。市内には、約23,000基あると思われ、単独浄化槽が約68%、合併浄化槽が約32%である。作成した台帳を基に、広くPRする形ではなく、個別に単独浄化槽から合併浄化槽への切り替えを推進していく。その過程で、合併浄化槽の普及目標や整備目標を定めていく予定である。
委員	可能であれば、下水道処理人口普及率の向上と合併処理浄化槽の推進が数値目標の裏付けになると思うので、そういったものを示したうえで目標設定をしていただきたい。
事務局	下水道の普及率についての目標設定は可能かと考えるが、浄化槽については、下水道に接続すると普及率は減少することになり、台帳もないため現状の把握ができていないことから、目標設定は困難である。
委員	現行の第6次計画では、生活排水処理率の最終目標が96.9%（平成34年（令和4年）度）であるが、本計画では95.1%（令和11年度）と目標値が下がっている。その理由かどのようなものか。
事務局	94ページの図表3-6で示しているように、過去5年間の実績に基づいて見直したためである。現行計画では県の目標値に基づいて設定したが、本計画では市の実績に基づき見直した。
委員	食品ロス実態調査の調査結果は、今後どのように活用していくのか。例えば、結果からは集合住宅において食品ロス量が多いように見受けられるが、マンション等の集合住宅に優先的に働きかける等検討するのか。
事務局	今後の周知に活用したい。
事務局（受託事業者）	委員のご指摘について、42ページの表2-25では集合住宅の食品ロスの割合が多いが、今回の調査では調査対象世帯の排出原単位ま

	では把握していない。集合住宅の1世帯当たりのごみ排出量が少ない可能性もあるため、今回の調査結果を見て、集合住宅では1世帯当たりの食品ロス量が多いとまでは言えない。
委員	京都市では、43ページのような、直接廃棄された食品廃棄物を並べた写真を啓発等に活用している。京都市の例は参考になるのではないか。
事務局（受託事業者）	当社は京都市のごみ組成調査を実施したことがあり、啓発に利用することを想定して写真を撮影している。今回の写真を活用いただければありがたい。
事務局	写真を使った周知に努めていく。
委員	96、97ページの終末の放流先が河川となっている。テレビでの報道のように、大雨の際に、マンホールから水があふれでて、未処理のし尿が放流先に流れこんでくることはないのか。下水道の構造をわかりやすく説明いただきたい。
事務局	荒川水循環センターについては、一部合流式の下水道区域があり、汚水と雨水が一緒になっている。そのため、マンホールから汚水もあふれ出る可能性はある。一方、中川水循環センターでは、汚水と雨水が分かれている分流式下水道のため、あふれたとしても雨水のみである。
事務局	鳩ヶ谷衛生センターについては、施設が高いところにあり、先日の台風でも影響はなかった。
委員	下水処理施設からエネルギーを作り出すこともできるのか。
事務局	市の施設では実施していない。埼玉県の下水处理施設では実施している例がある。
委員	下水のインフラからエネルギーを得る手段はいくつかある。一つは、下水汚泥を焼却する際に出る熱を利用した発電や温水としての利用であり、こちらは既存施設にも適応できる。もう一つは汚泥を菌などと混ぜてメタン発酵させて、そのメタンガスで発電するというものである。こちらは、新規に設備を導入する必要があり、大きな投資が必要である。また、施設の整備にも時間がかかる。

事務局	95ページの図表3-8の脱水し渣については、鳩ヶ谷衛生センターから朝日環境センターへ搬入し、焼却している。発電に貢献をしている。脱水汚泥については、堆肥化している。
委員	ごみの有料化については、温室効果ガスの削減につながるのか、市民アンケートで聞いているのか。
事務局	そのような観点ではない。ごみ減量の観点と市民がどのような意見を持っているのか把握するために聞いた。
委員	将来的にごみの有料化は必要であろうかと思う。小平市では、陶磁器類を有料化して岐阜県のリサイクル施設へ搬入している。川口市では、陶磁器類も一般ごみとして排出されており、最終処分場への負担が大きいのではないか。品目によっては、有料化することも検討しているのか。
事務局	粗大ごみについては有料化を実施しているが、陶磁器類については、検討していない。
委員	最終処分場には余裕があるのか。
事務局	余裕があるわけではない。
委員	最終処分場から、今後連携等を図り、減量について取り組んでほしい等の話はでているのか。
事務局	出ていない。
委員	75ページのプラスチックによる環境負荷の削減と散乱防止について、本文の内容は散乱防止が主で環境負荷の削減について触れられていない。必要であれば、使い捨てプラスチックの削減や環境負荷の少ない原材料への転換の検討等を加えていただきたい。
事務局	追加記載する。
委員	80ページの3 その他の施策等になるが、平常時から県や近隣の自治体との連携を進めれば、緊急時の連携もうまくいくのではないのか。
事務局	会長と相談のうえ、追加できるものを追加する。

議長	パブリックコメント実施前の最後の審議会なので、全体的な質問でもいいので何かあるか。
委員一同	意見なし。
議題（２）その他	
事務局から、その他については今後のスケジュール及びフードドライブの告知について説明	
委員一同	意見なし。
委員	プレス５３０は、現在年３回の発行であるが、年４回に一回増やすことはできないか。また、外国語版は作成しているのか。作成していなければ是非検討をしてほしい。
議長	この件は、個別に私や事務局で対応させていただきたい。
議長	みなさまから貴重な意見を賜りましてありがとうございました。それでは、以上で本日の議事は全て終了いたしました。円滑な議事進行にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。
事務局	ありがとうございました。以上をもちまして令和元年度第４回川口市廃棄物対策審議会を閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。
閉会 (１５：２０)	